

古今操集

全

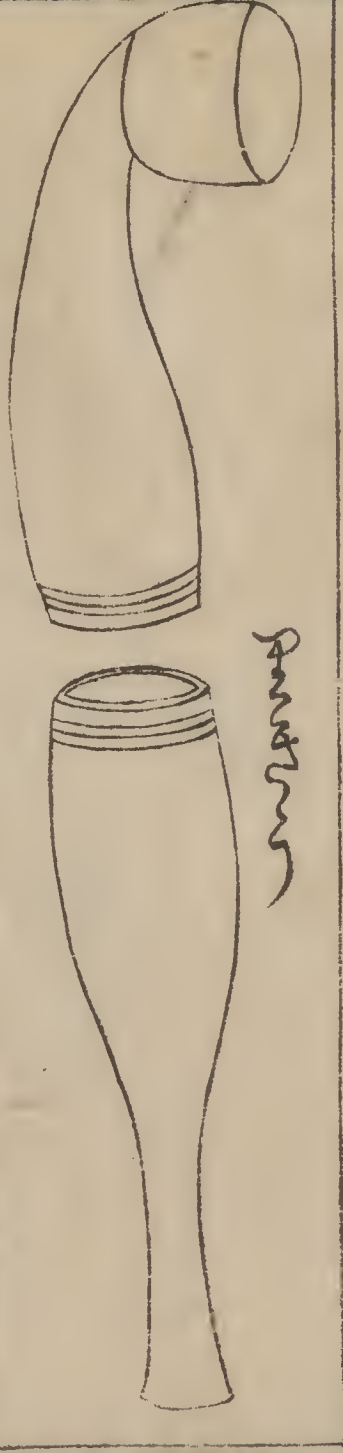
巻の部

180

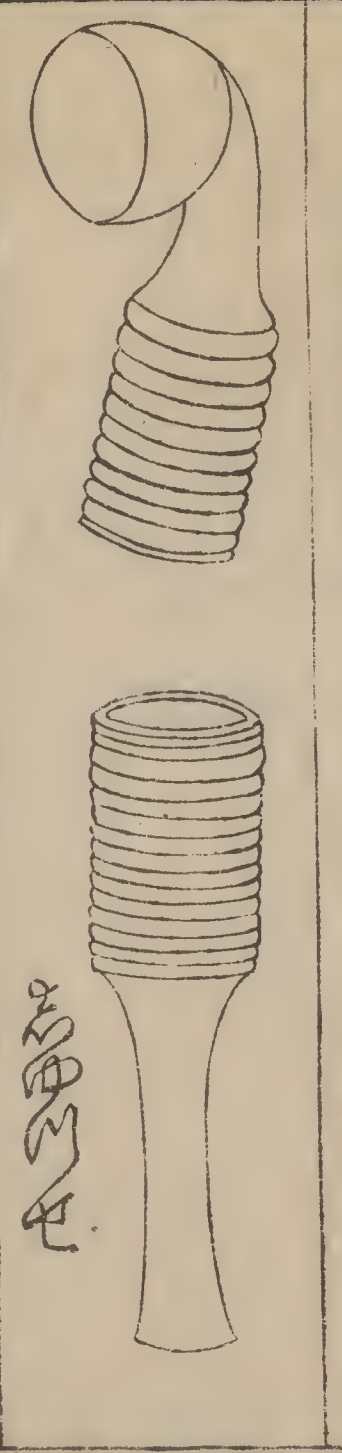




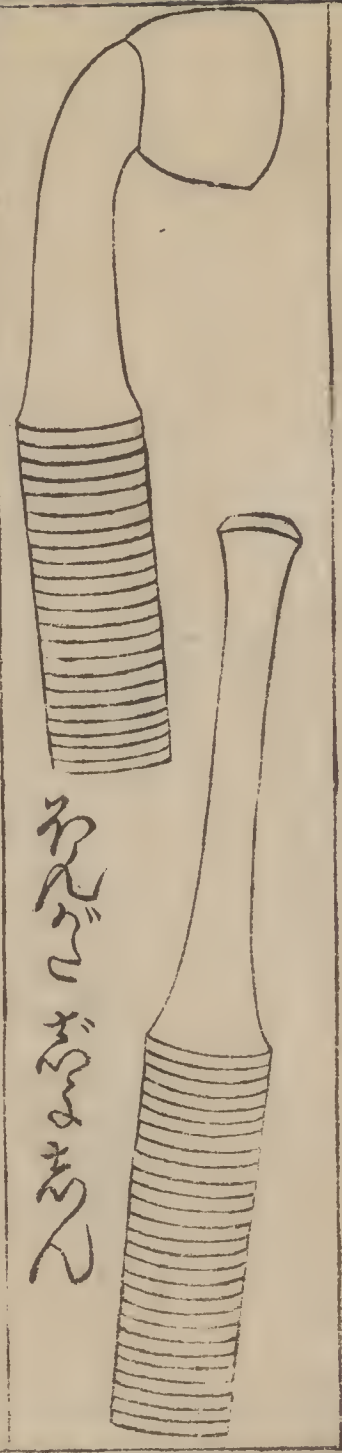
あまのつらみ



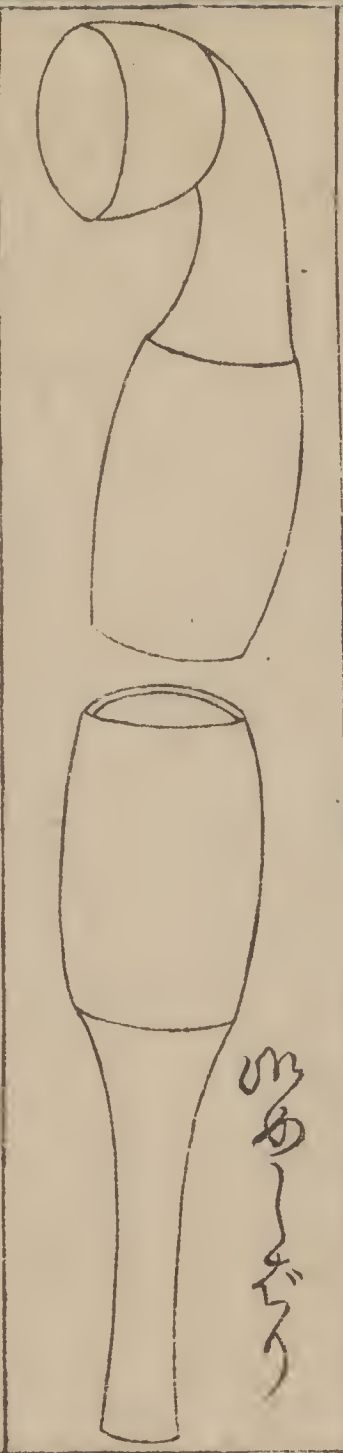
あまのつらみ



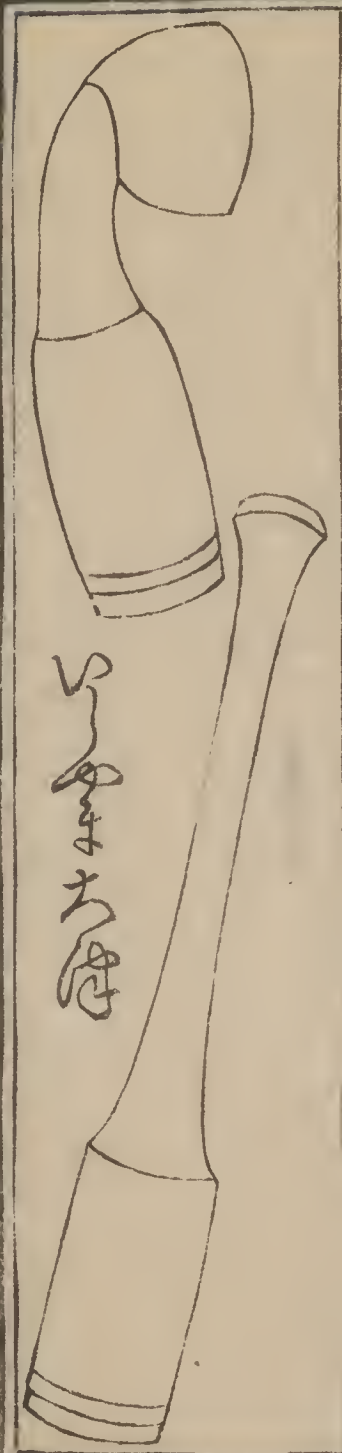
あまのつらみ



あまのつらみ



あまのつらみ



あまのつらみ

五ヶ所のつらみ
 とはのりつらみ
 いろふんつらみ
 たぐりつらみ
 ありのつらみ
 ありとす



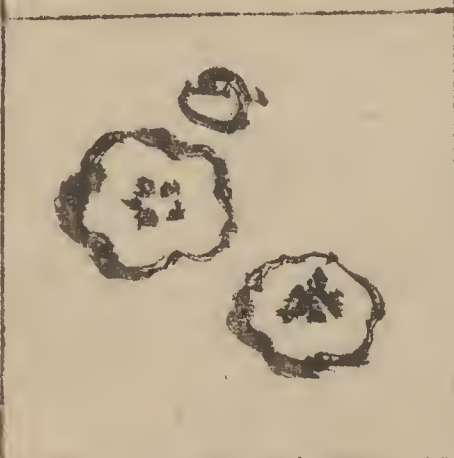
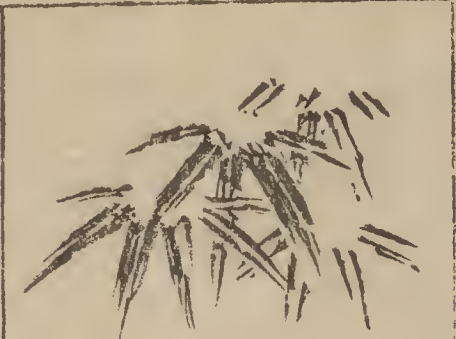


のびちせるのりやうと
あるべし



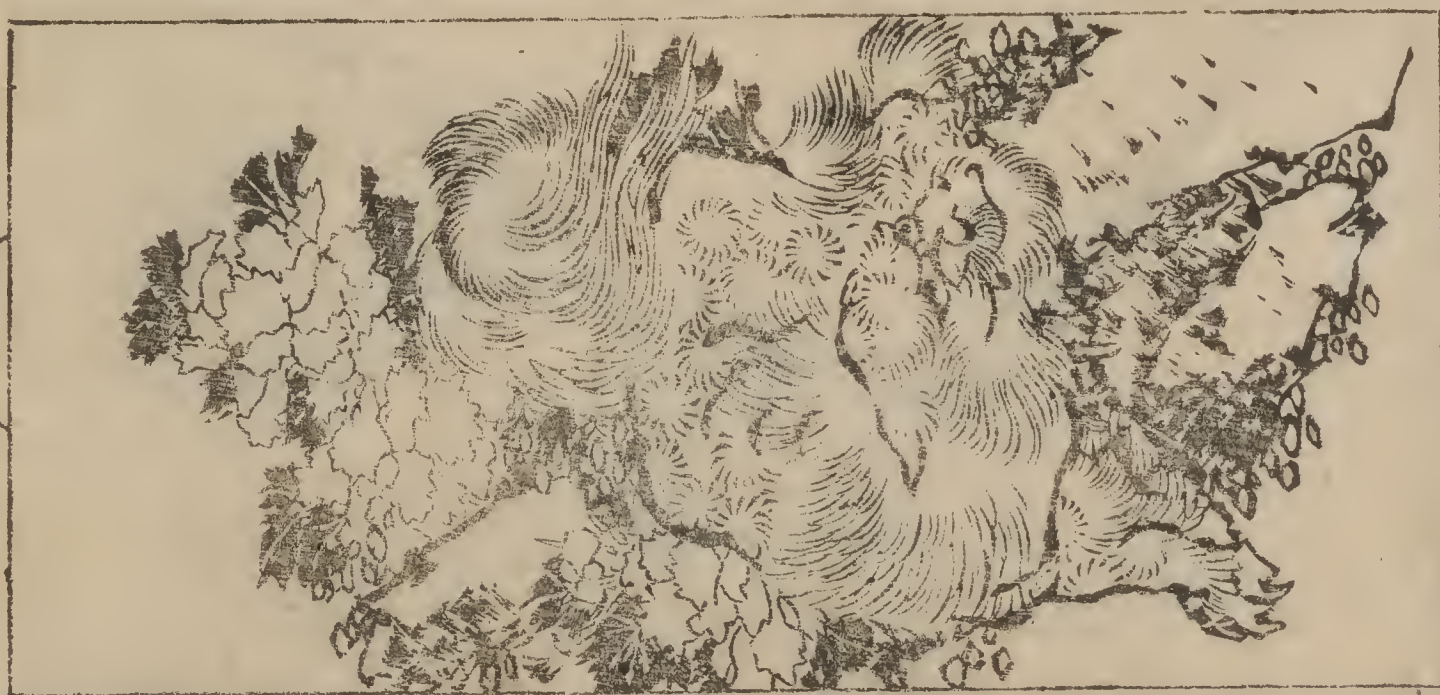
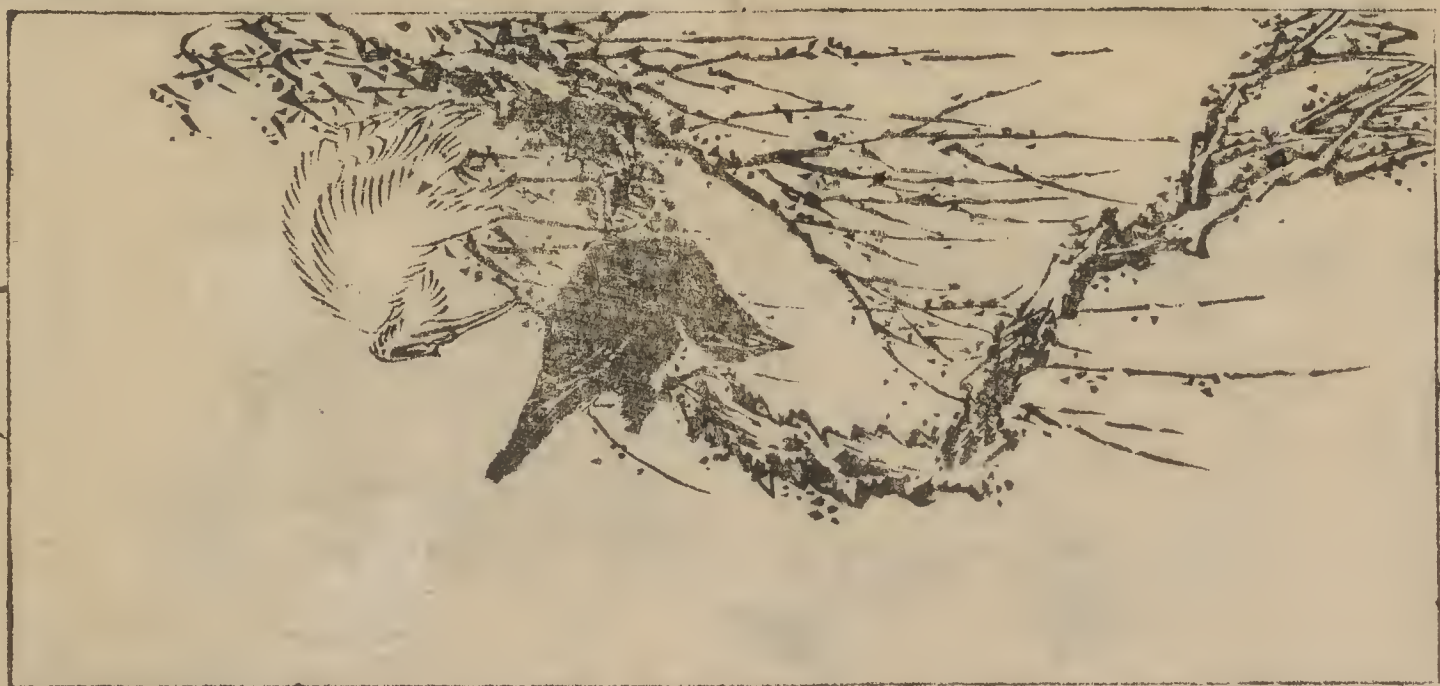


月のむらり



何と
中より
つるど
をへて
は

のむらり
あたらん





男
まげ
さ

原

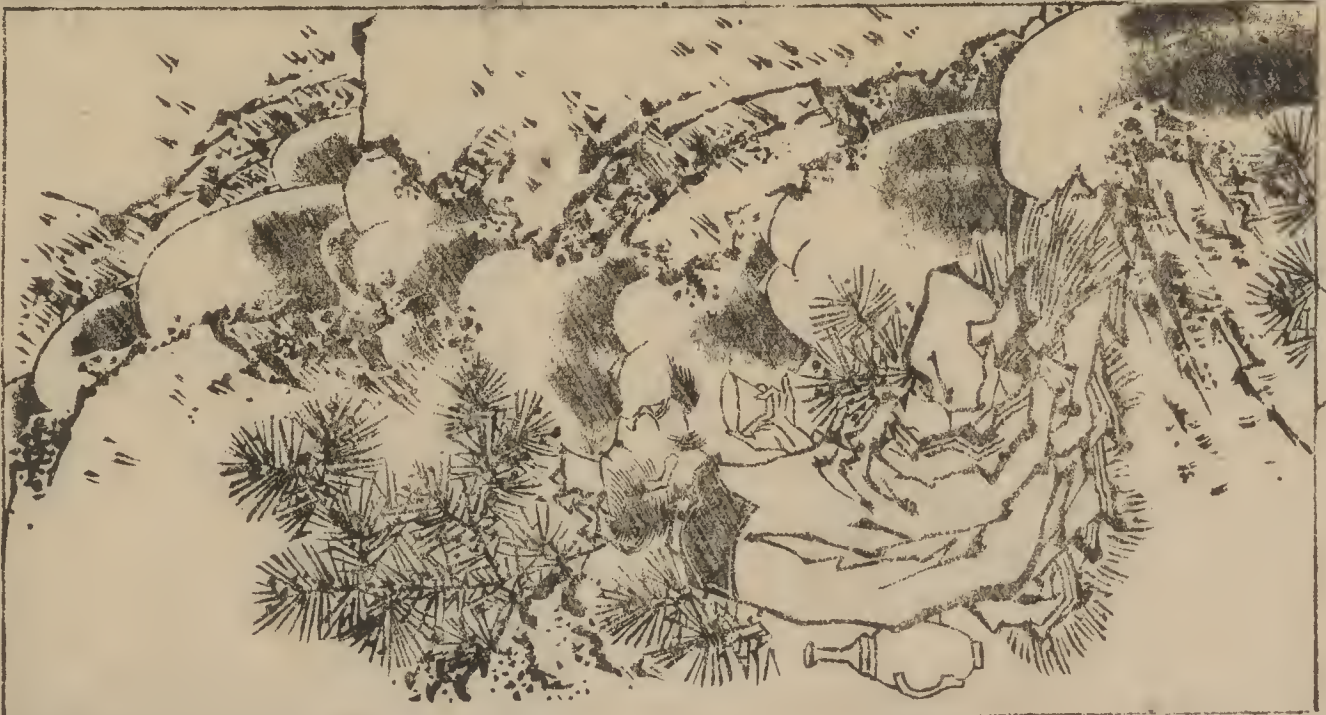


の
まげ
の
り



まげ
の





口のくはりやう

節々金雀

文雀之部

六



うきやう
うきやう
うきやう

のびたのび

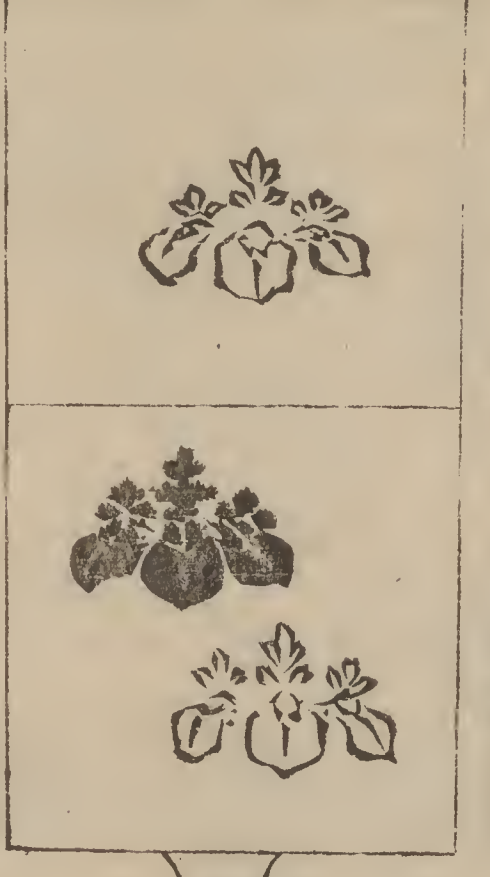


植木

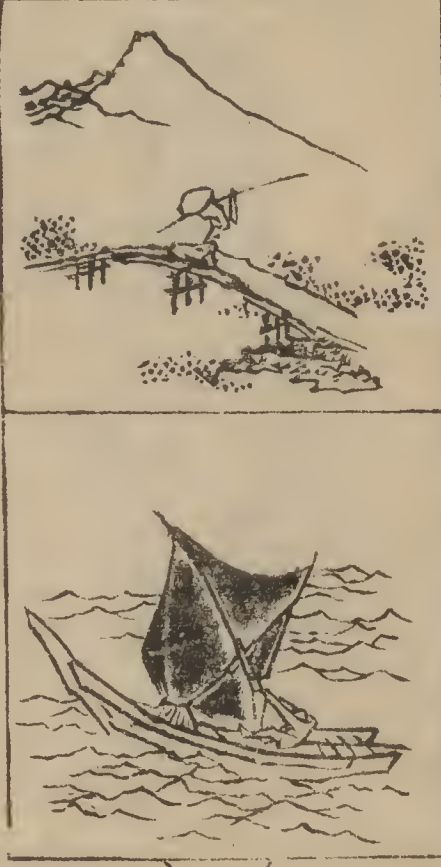
雑之部

五

けつぐんハ
おんま
まのの
りやうん

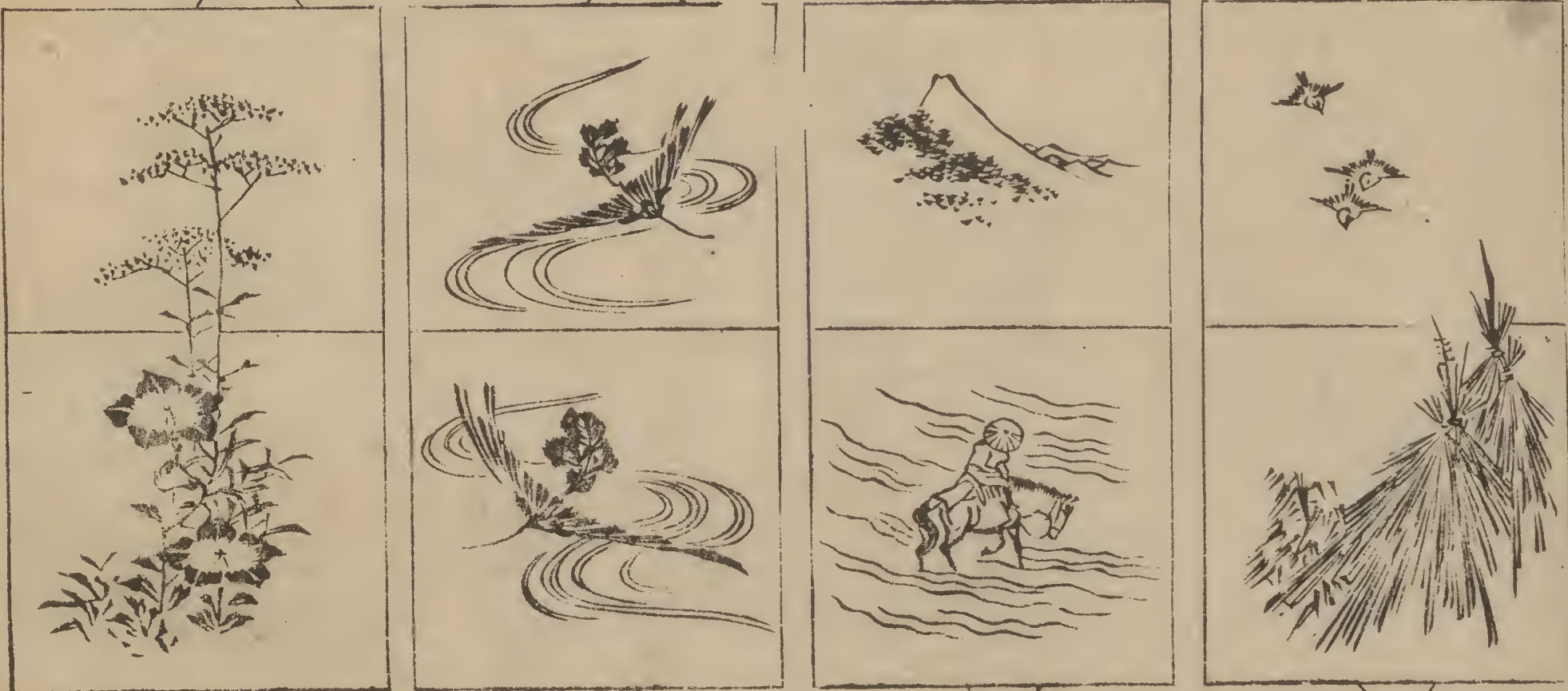


ロドク



節々佳々
隆々

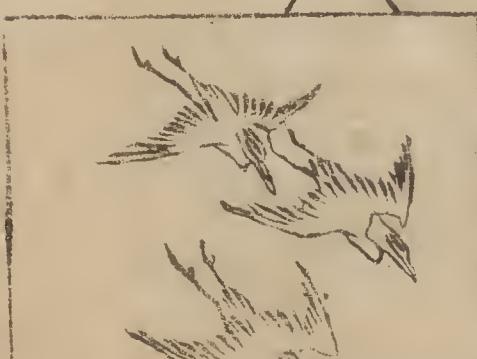
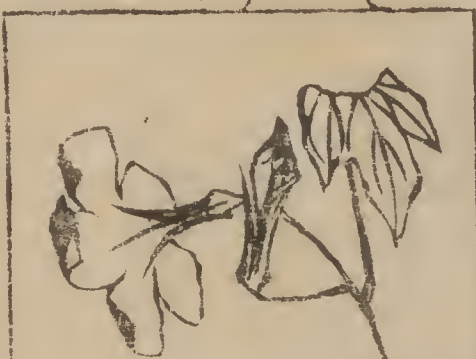
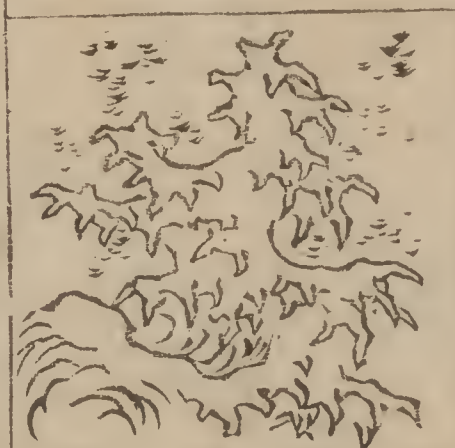
17



まふ
口ド



林
箱
錦
開
箱
之
活



あつ山乃
まつれ
とろひ
かくろひ
かきしんもあ
らひのさうあ



木村
全
録
開
録
音

柳 新 春 賀 詞
 梅 嶺 雪 霽 晴
 竹 葉 青 翠 綠
 桃 花 紅 似 錦
 九 九 日

けふは
 ねとこ
 りやう
 え



日
 ねとこ
 りやう
 え



節 籠 雛
 節 籠 雛





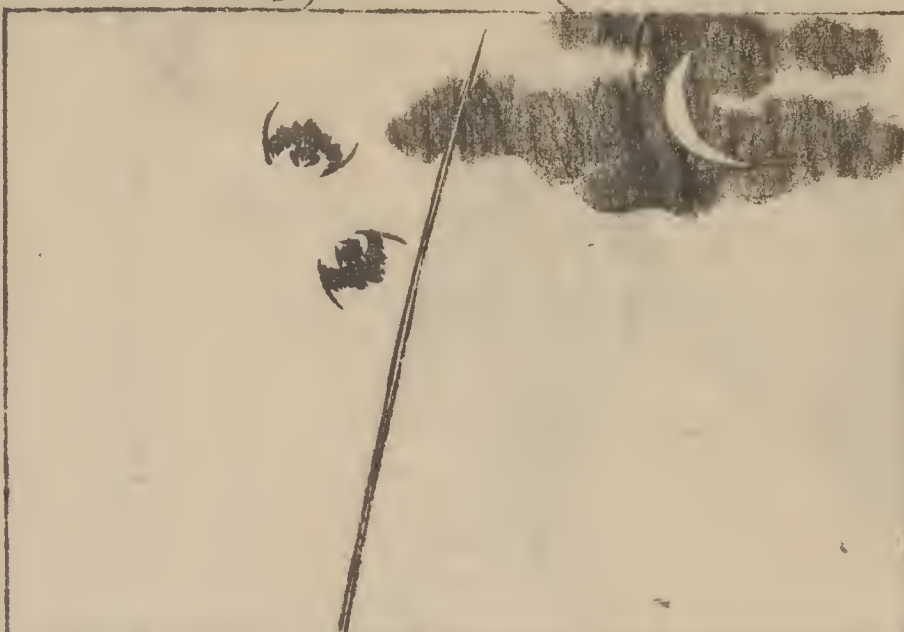
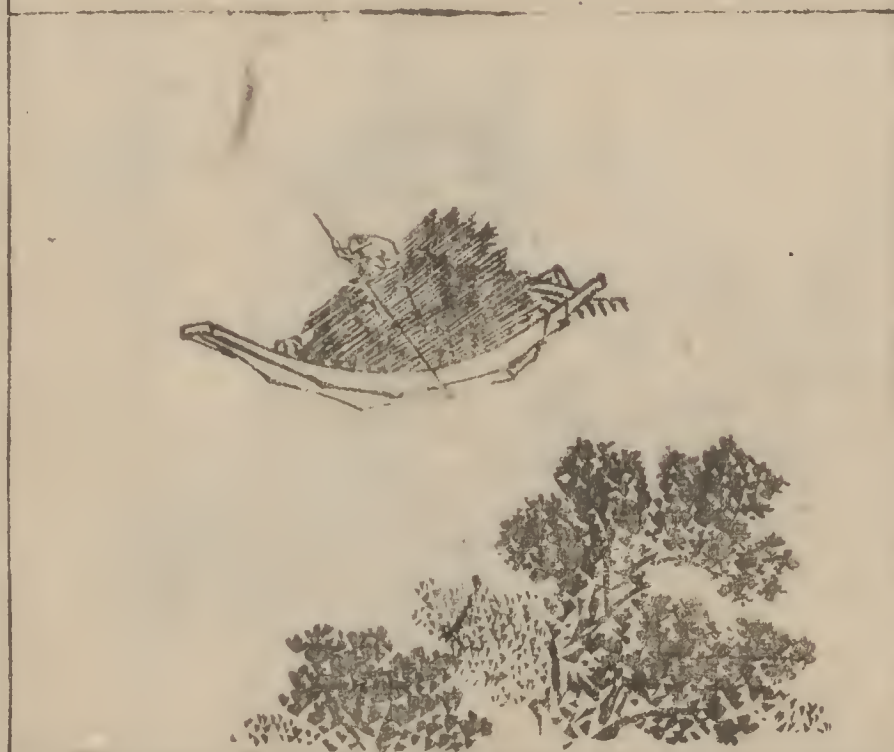
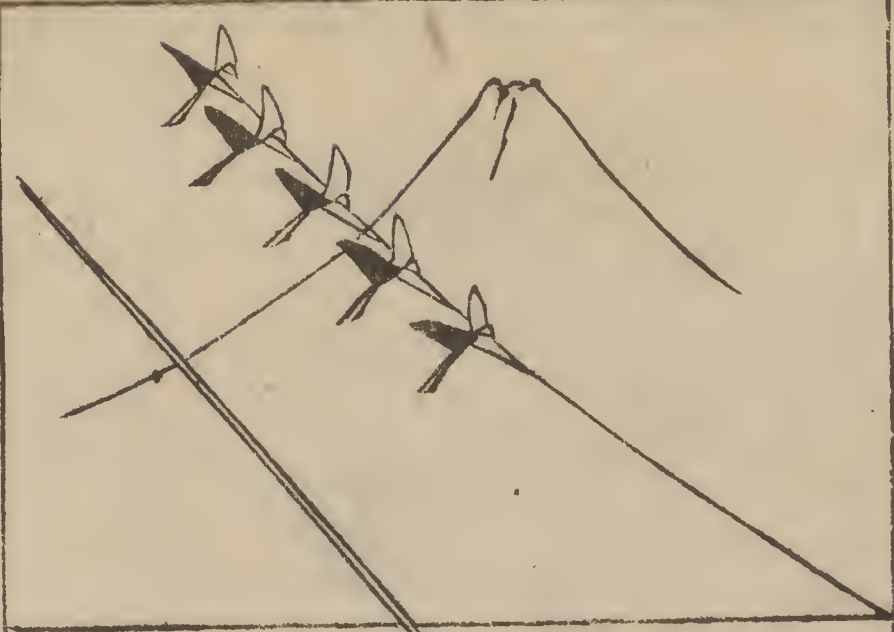


こまゆり大さるるありまらみ
 ろしひりやう大さるるありまらみ



権権
 権権
 権権
 権権

権権
 権権
 権権
 権権



維維維維
維維維維
維維維維
維維維維

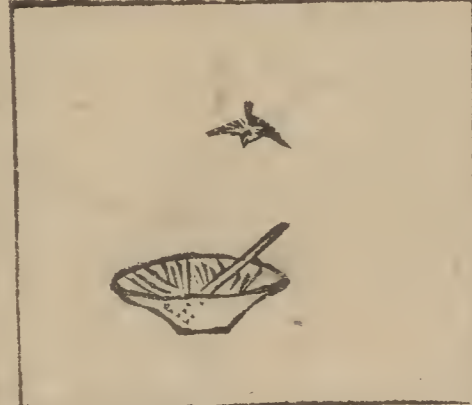
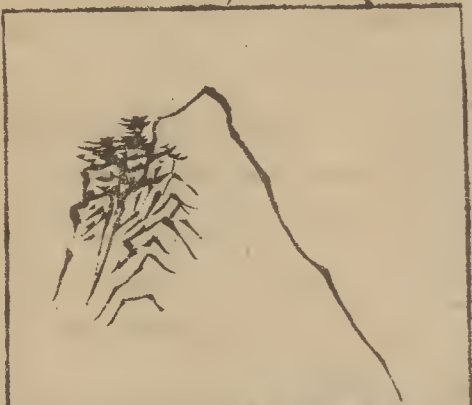
維維維維
維維維維
維維維維
維維維維

節
 蓬
 堆
 杉
 壑
 之
 部



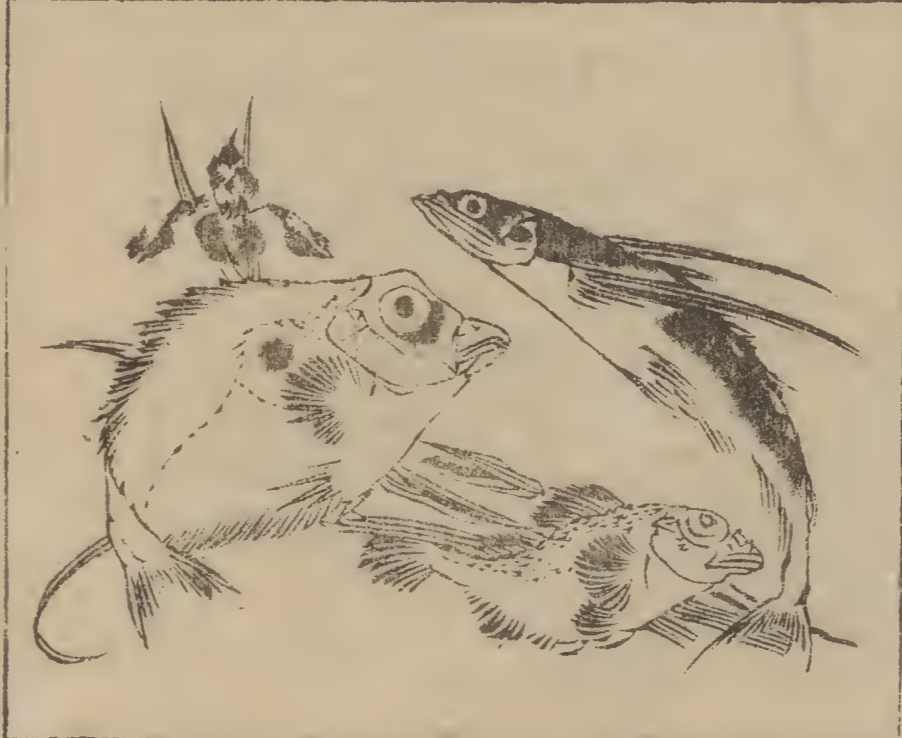
楠
 竹
 畠
 野
 開
 開
 開
 開
 箱
 之
 音

こまこま
おんる
ふせり



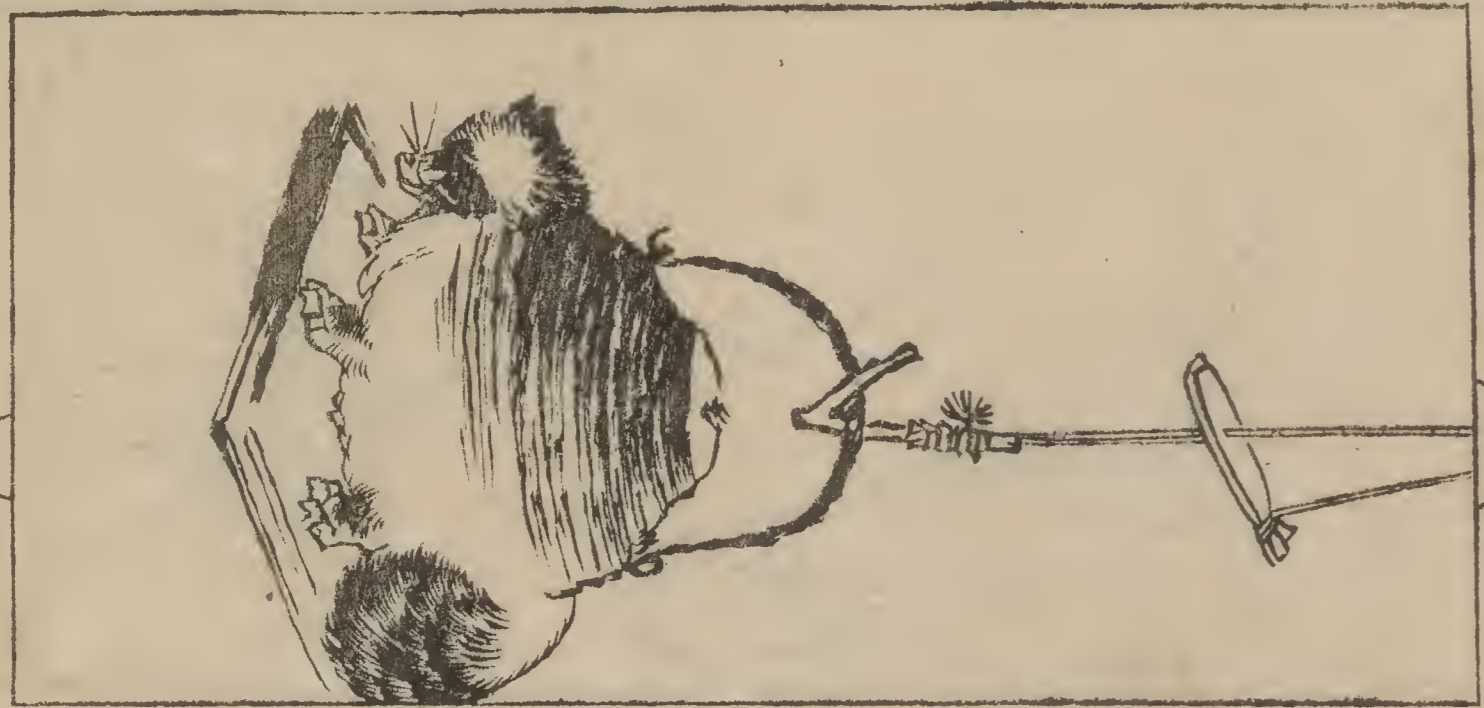
指箱
手箱
御箱
形箱

箱
之
部



節々維之 節々之部 六

此ニテ



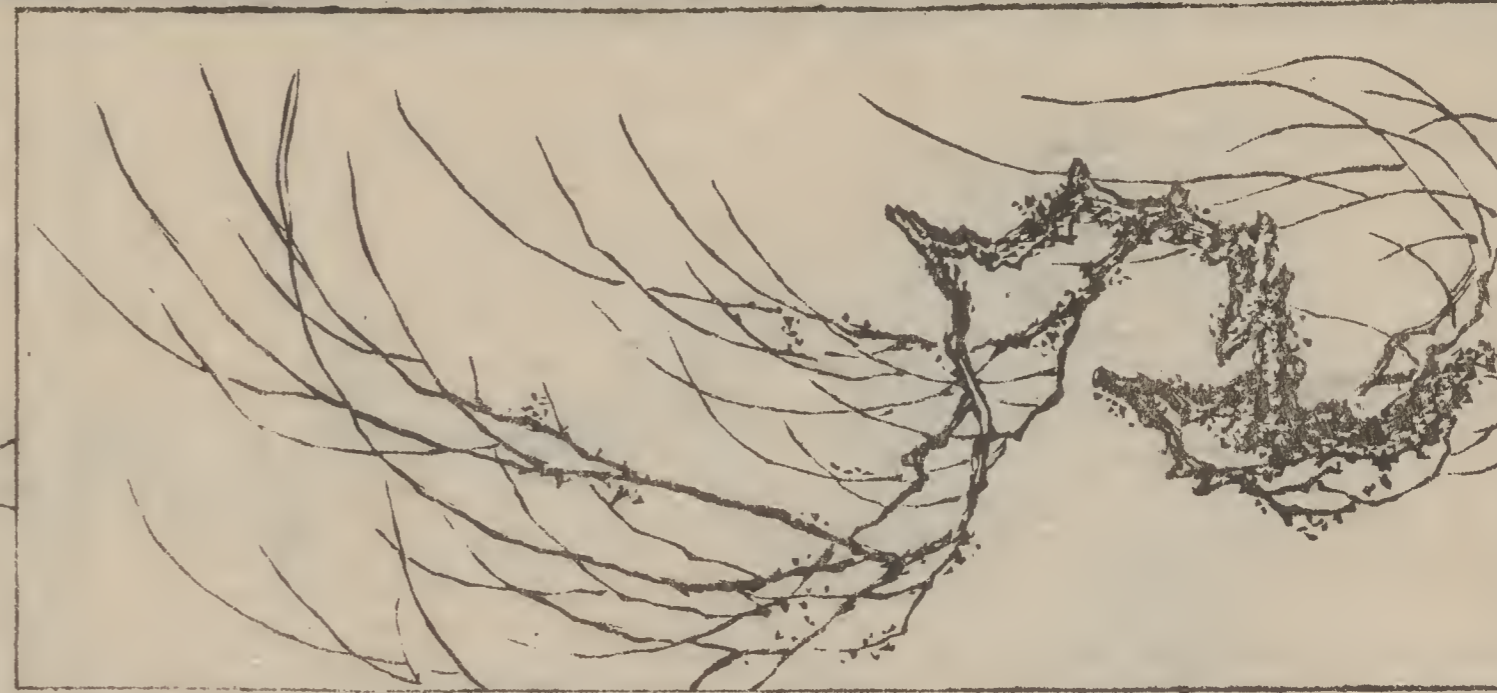
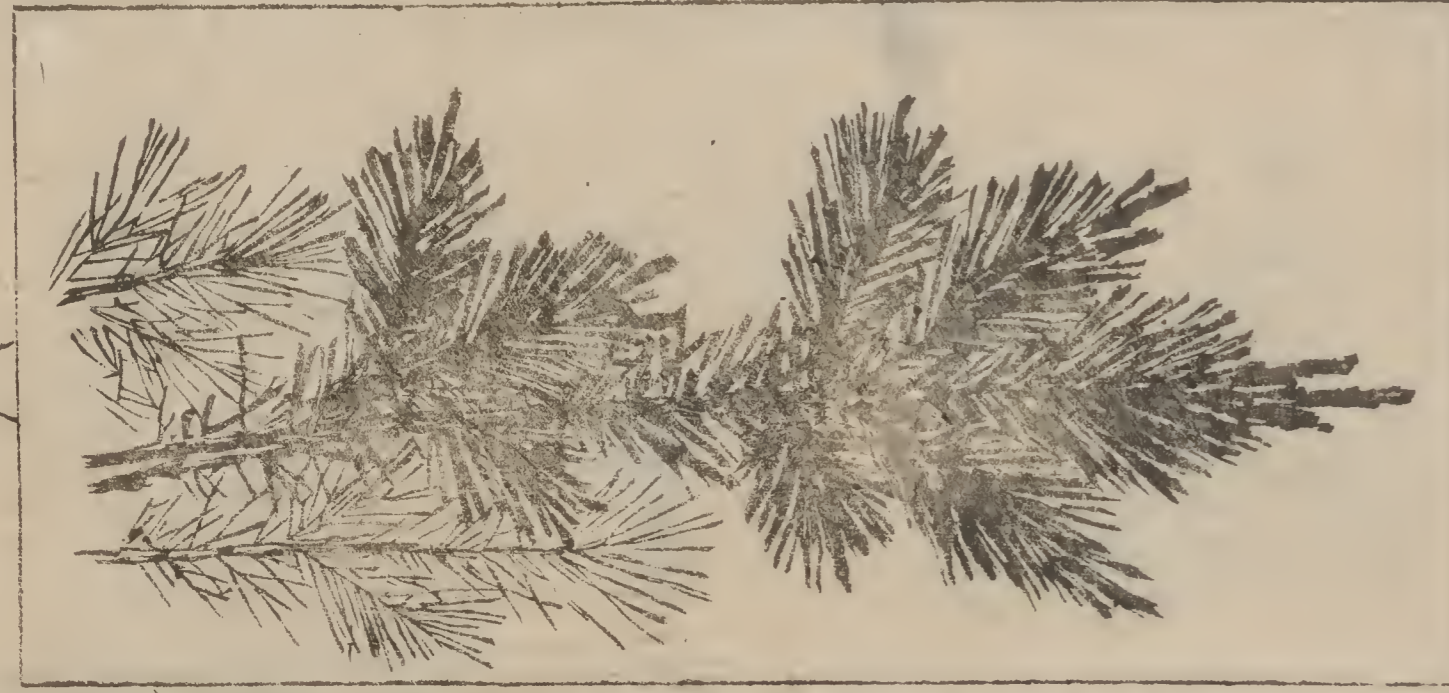
日打んま
ひま
こ

節々維之 節々之部 六

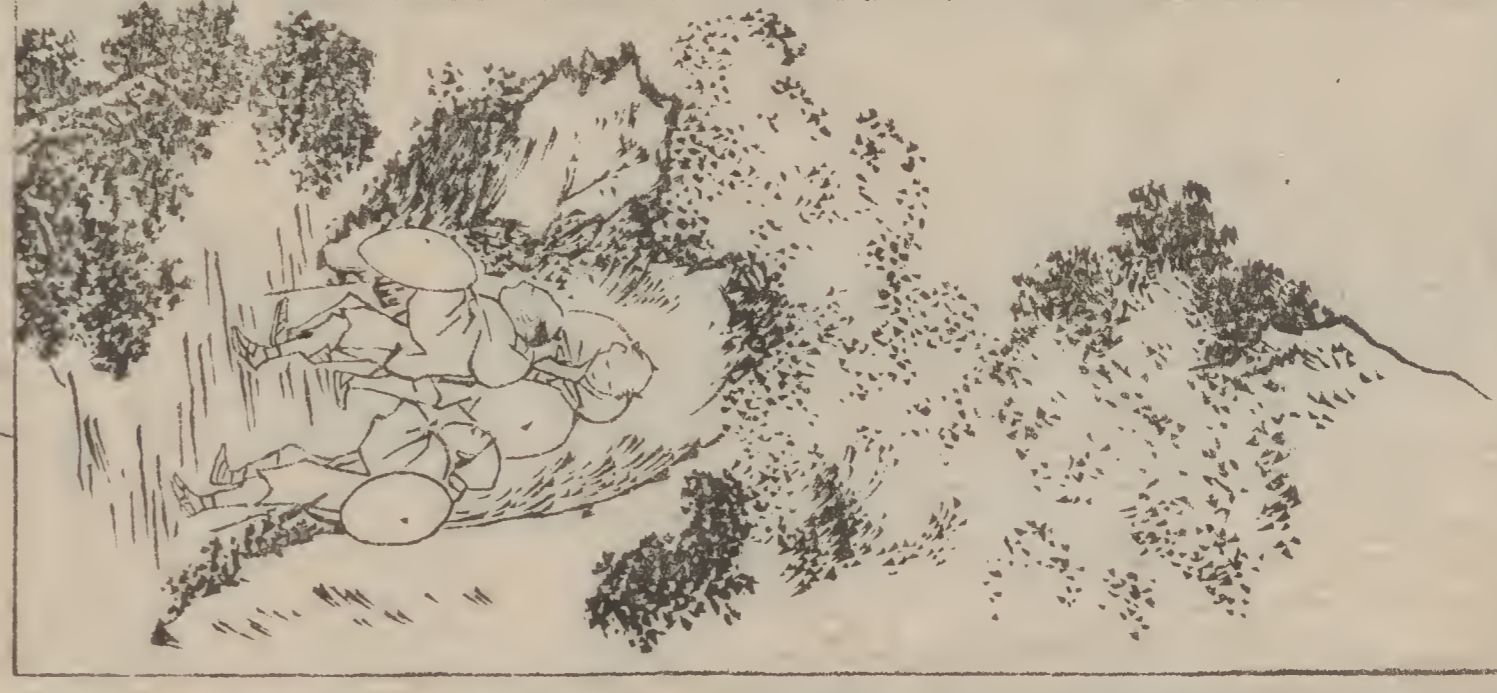
節々佳形
益之部
十九



日

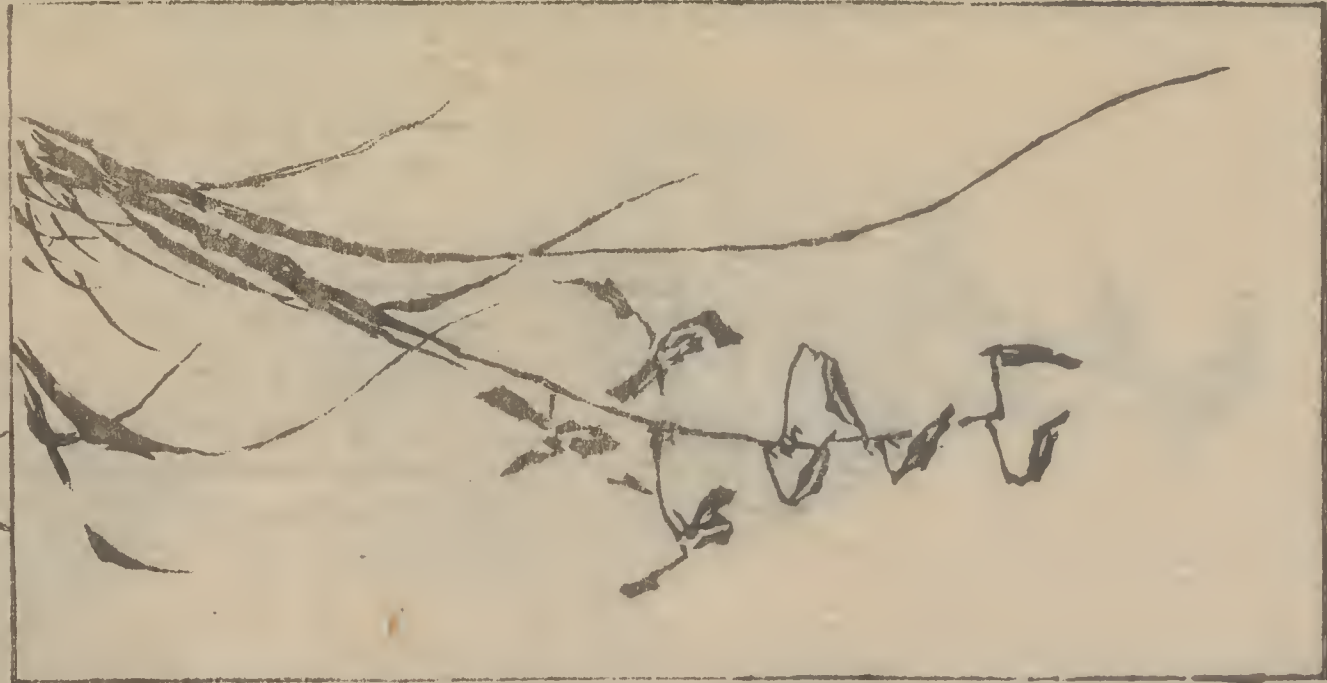


れあぐ



松竹梅
三
節々佳形
益之部
十九

ねづき



ねづき



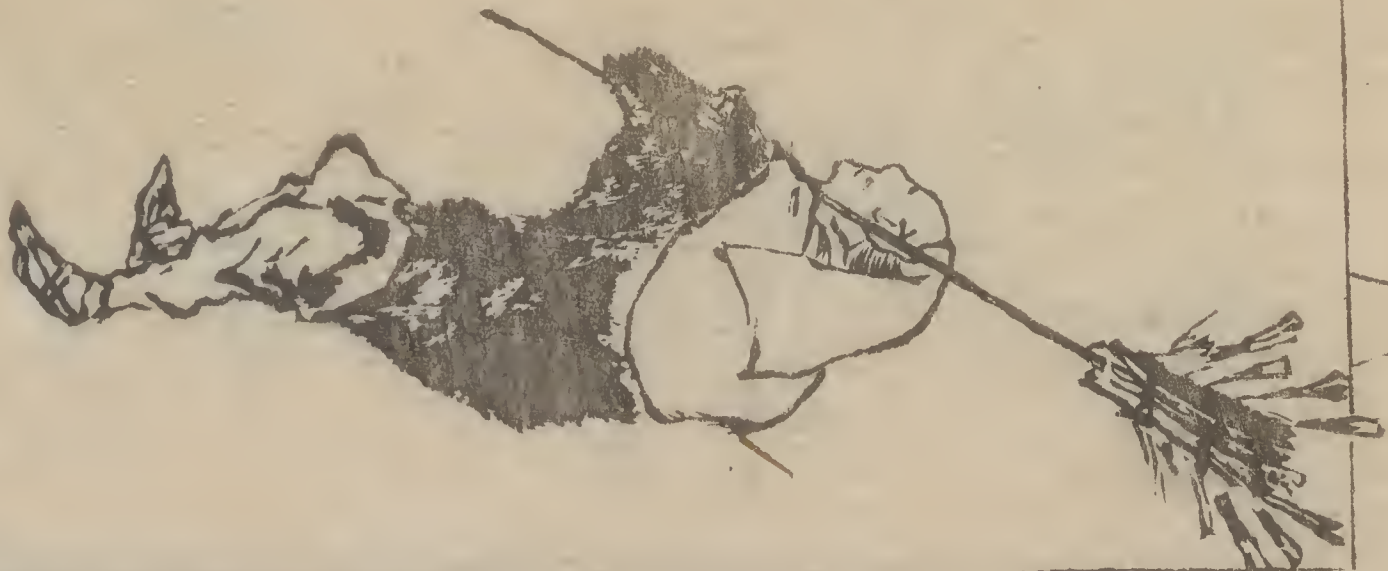


此べざり

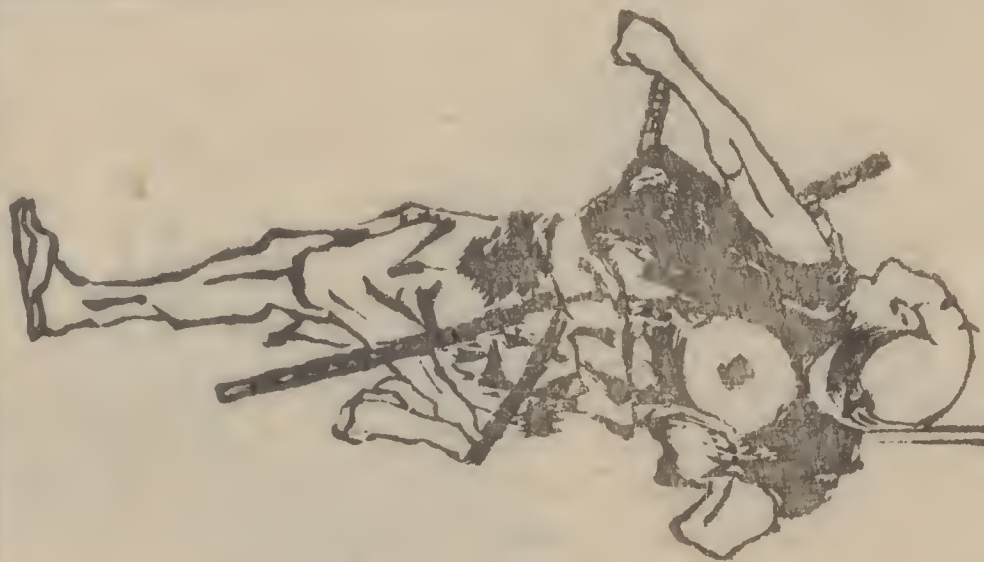


節金佳形 養之部

三十一

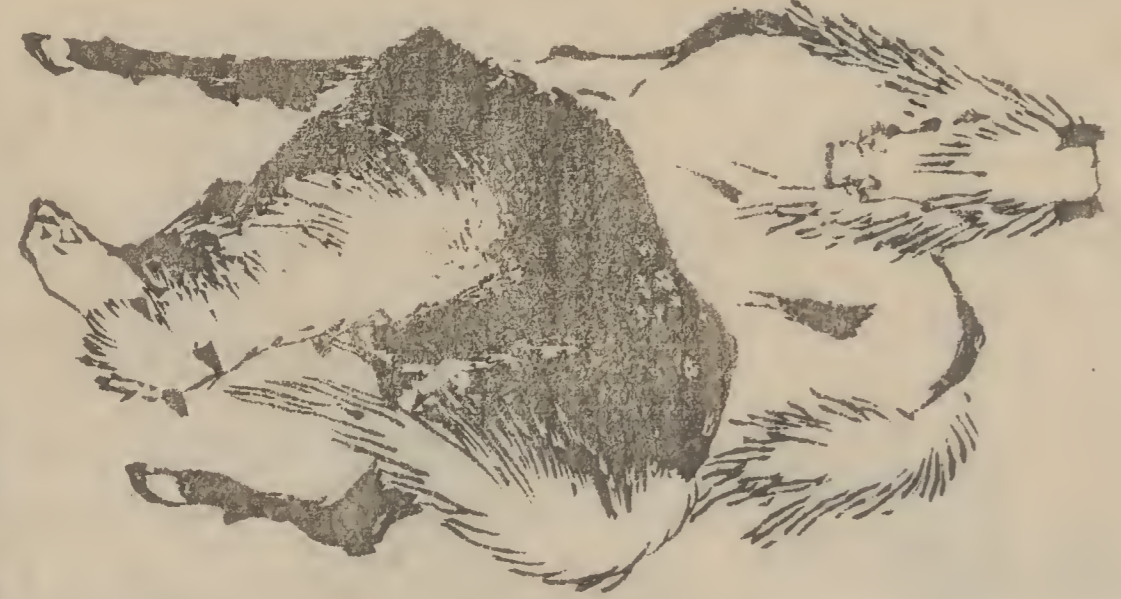


れろぐ



節金佳形 養之部

三十一



ねぶた



ねぶた



節分
豆まき
の
日

節分
豆まき
の
日
金
之
音

節之金佳少
金之平
三三

同 同



同 同 女

三三

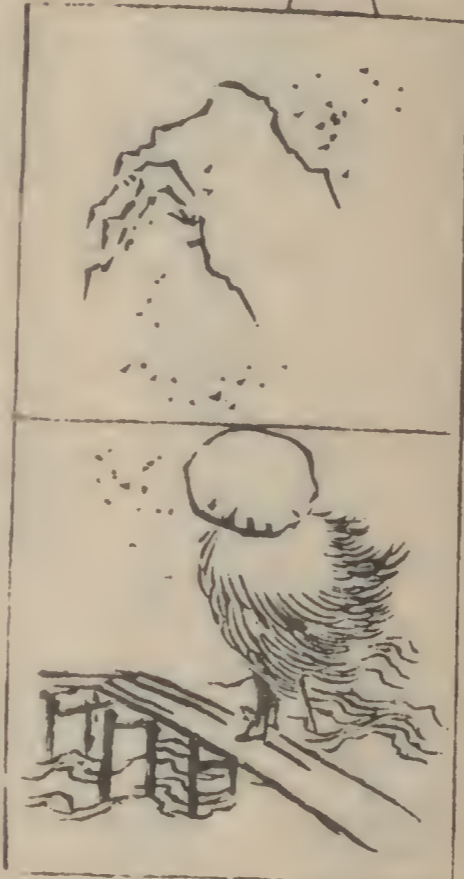
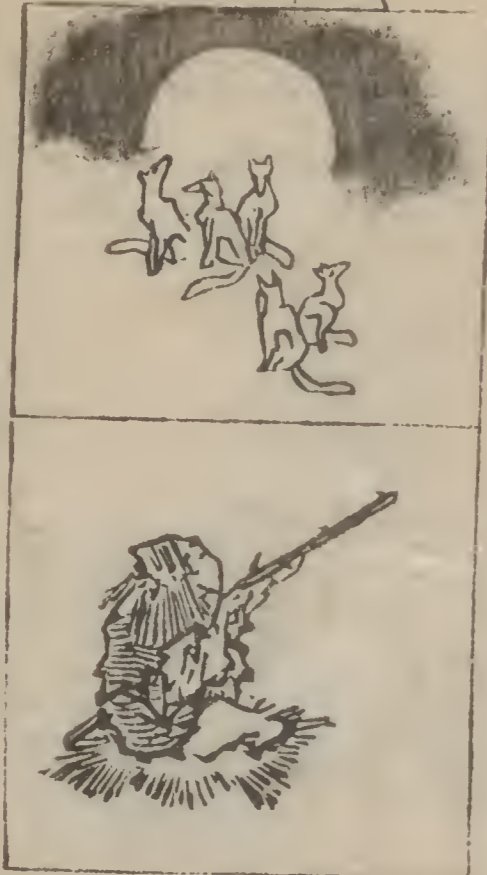


三三
三三
三三
三三
三三
三三
三三
三三

13

13

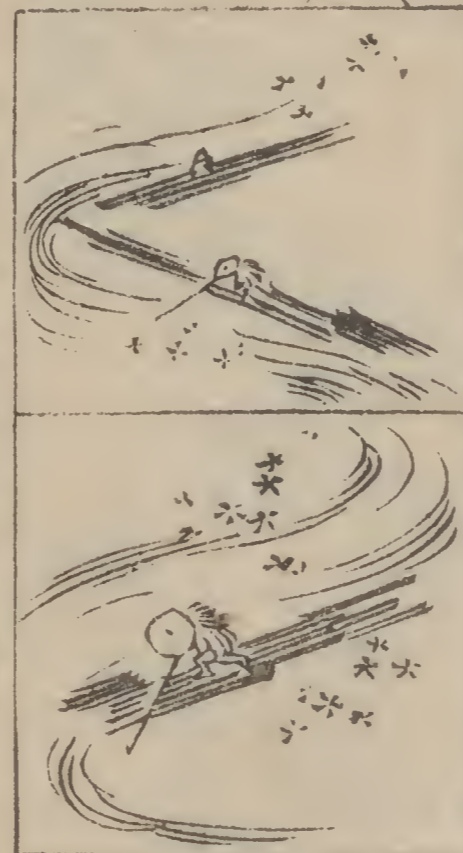
13



13

13

13





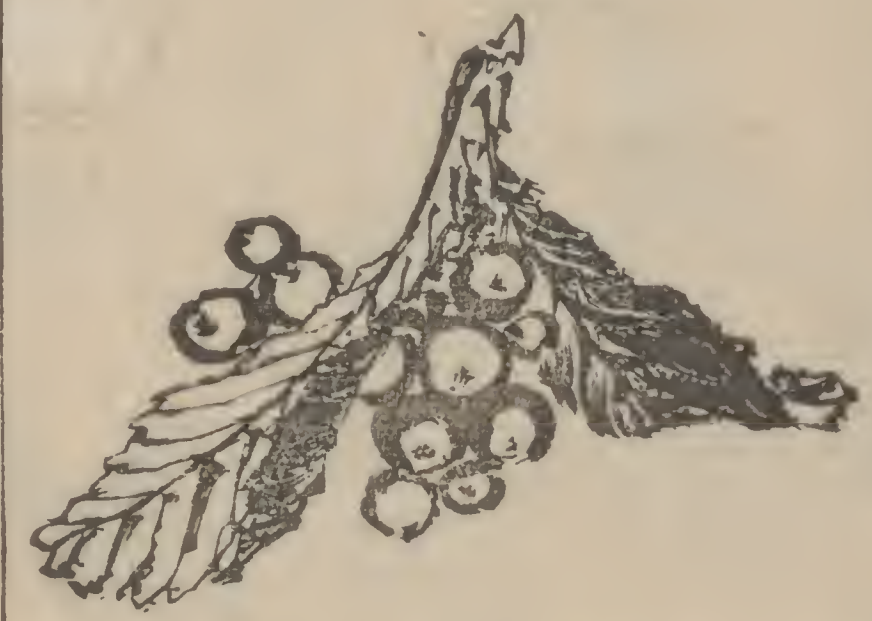
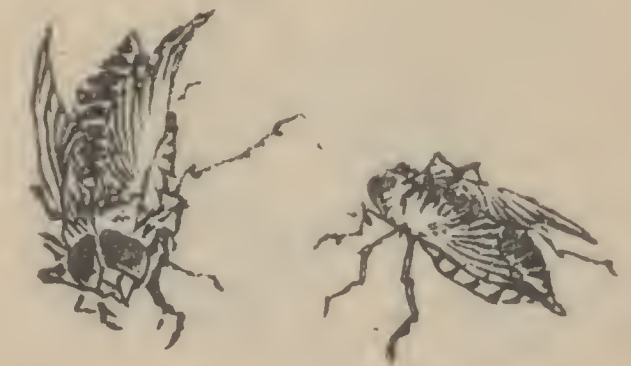
ふとねまき

月

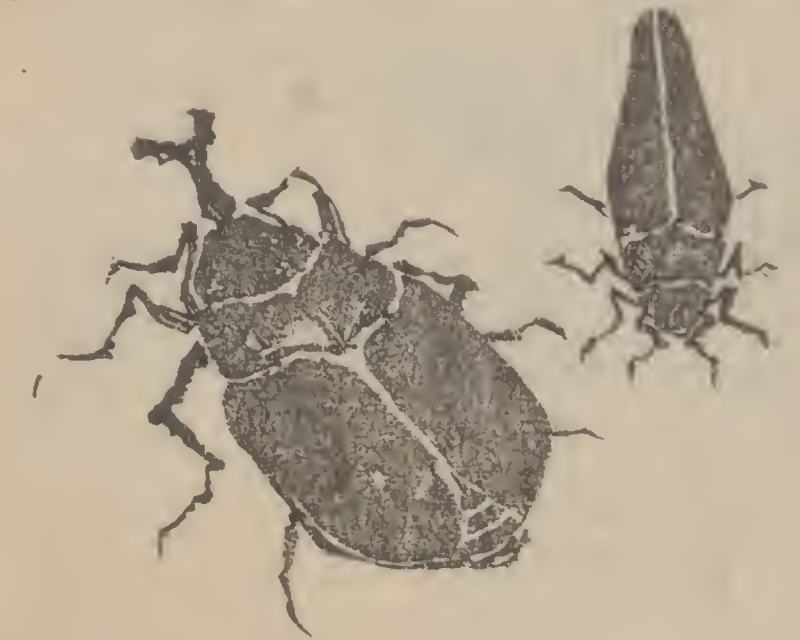
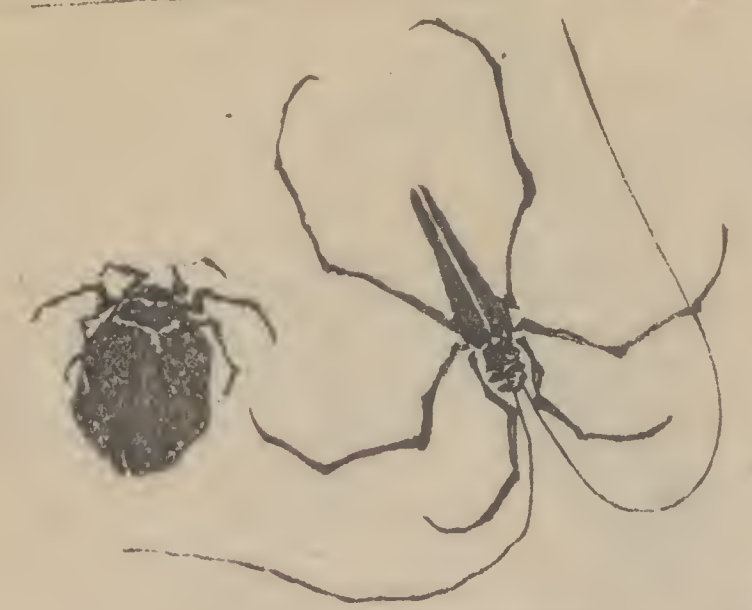
月

月





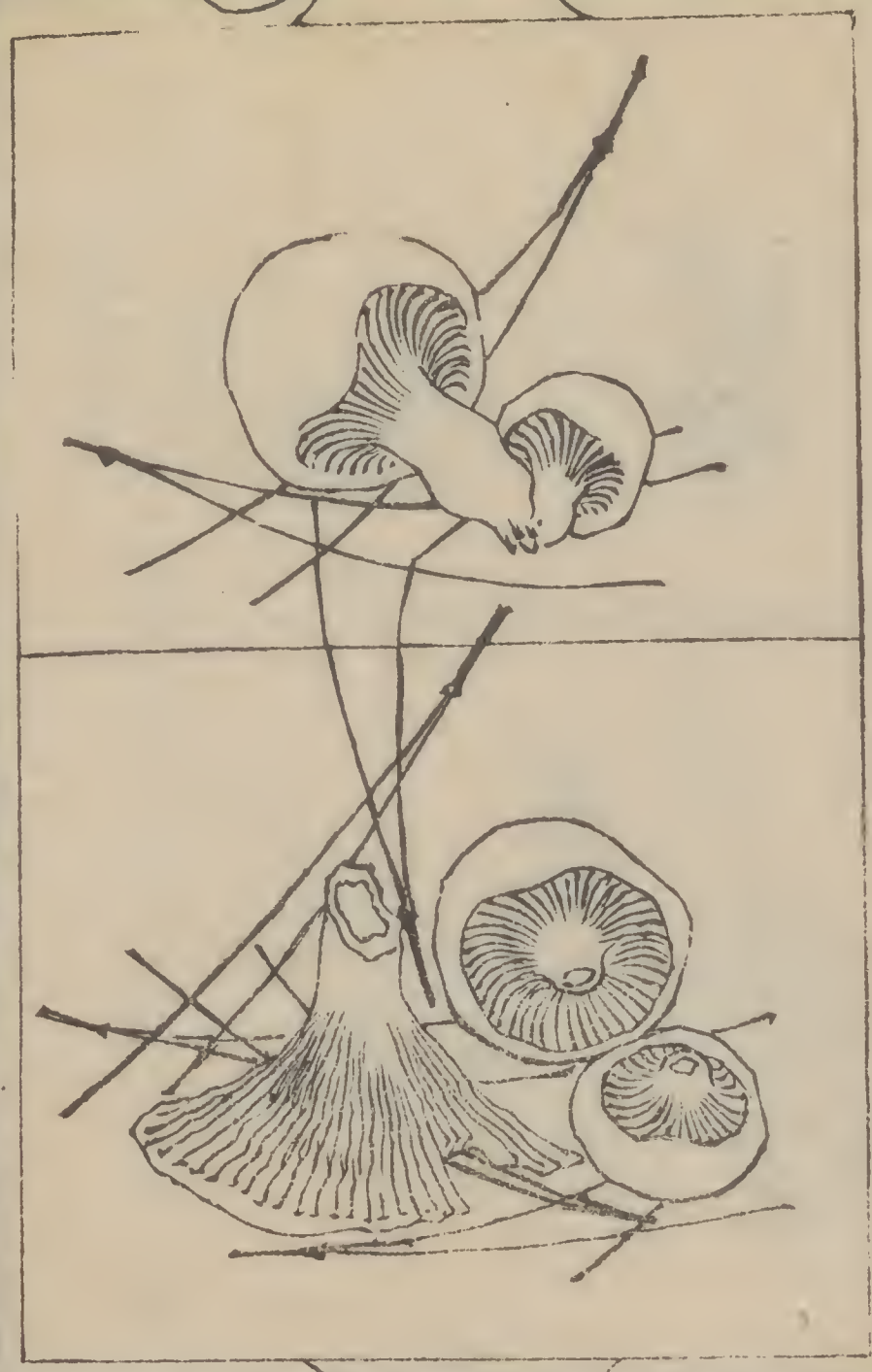
ふとむり



たろど

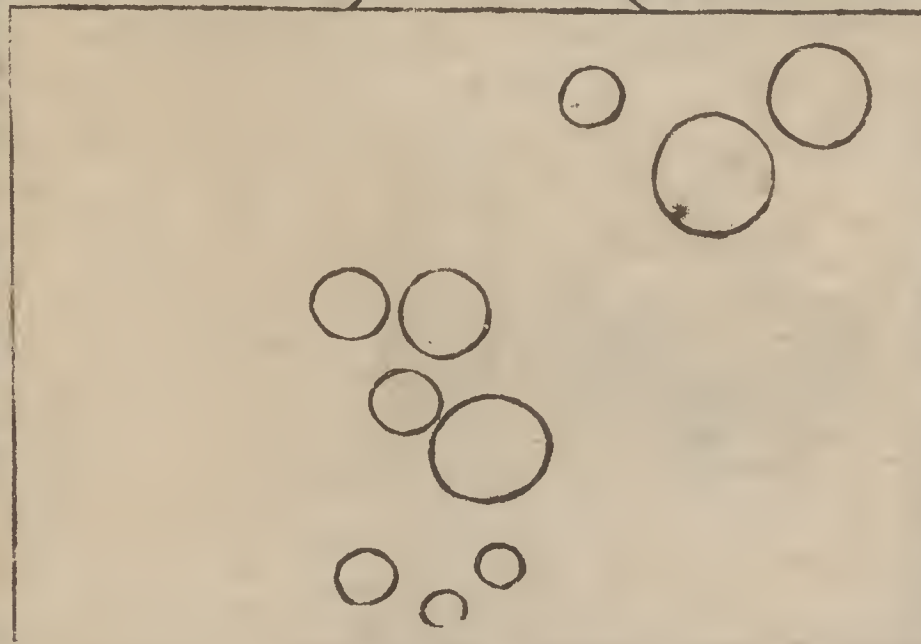


ねむい



日

節々金雀の 雀之部



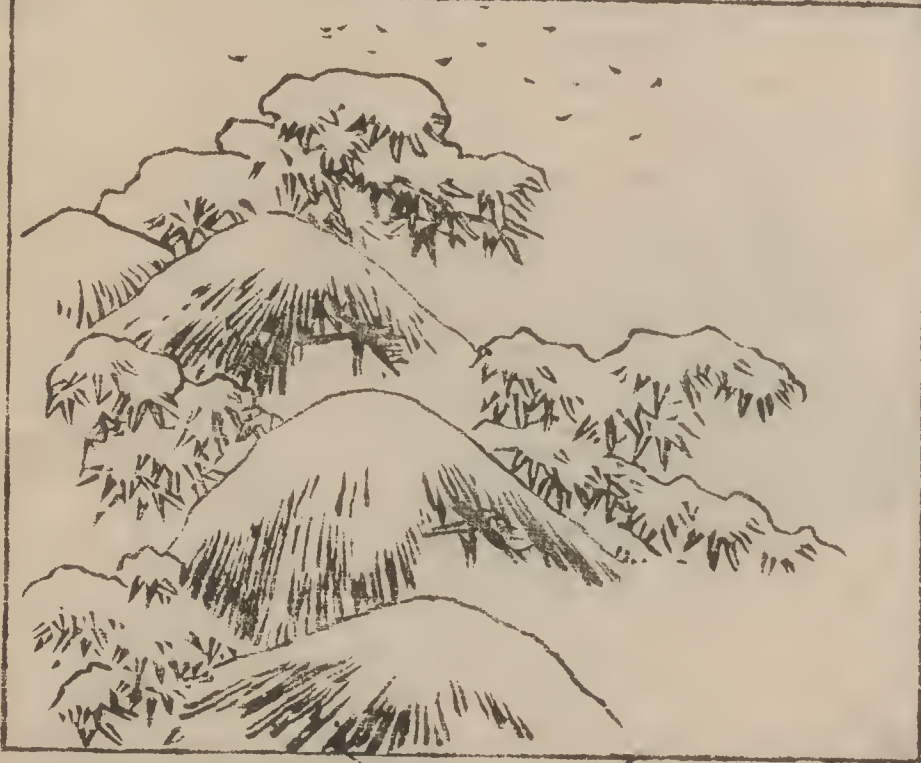
あどたろ



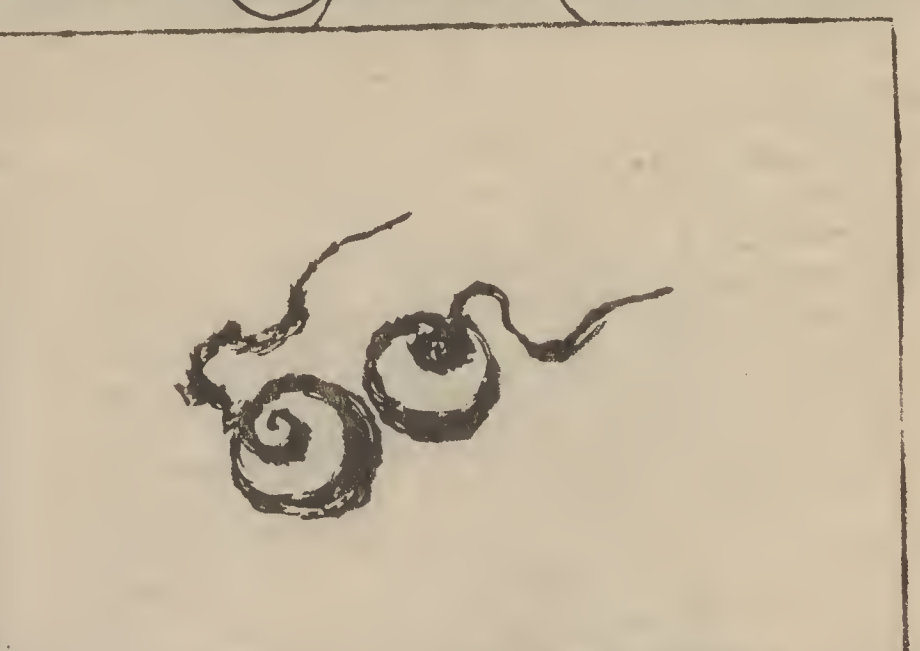
日

雀之部 雀之部

三十一



ふとたりの



四



17



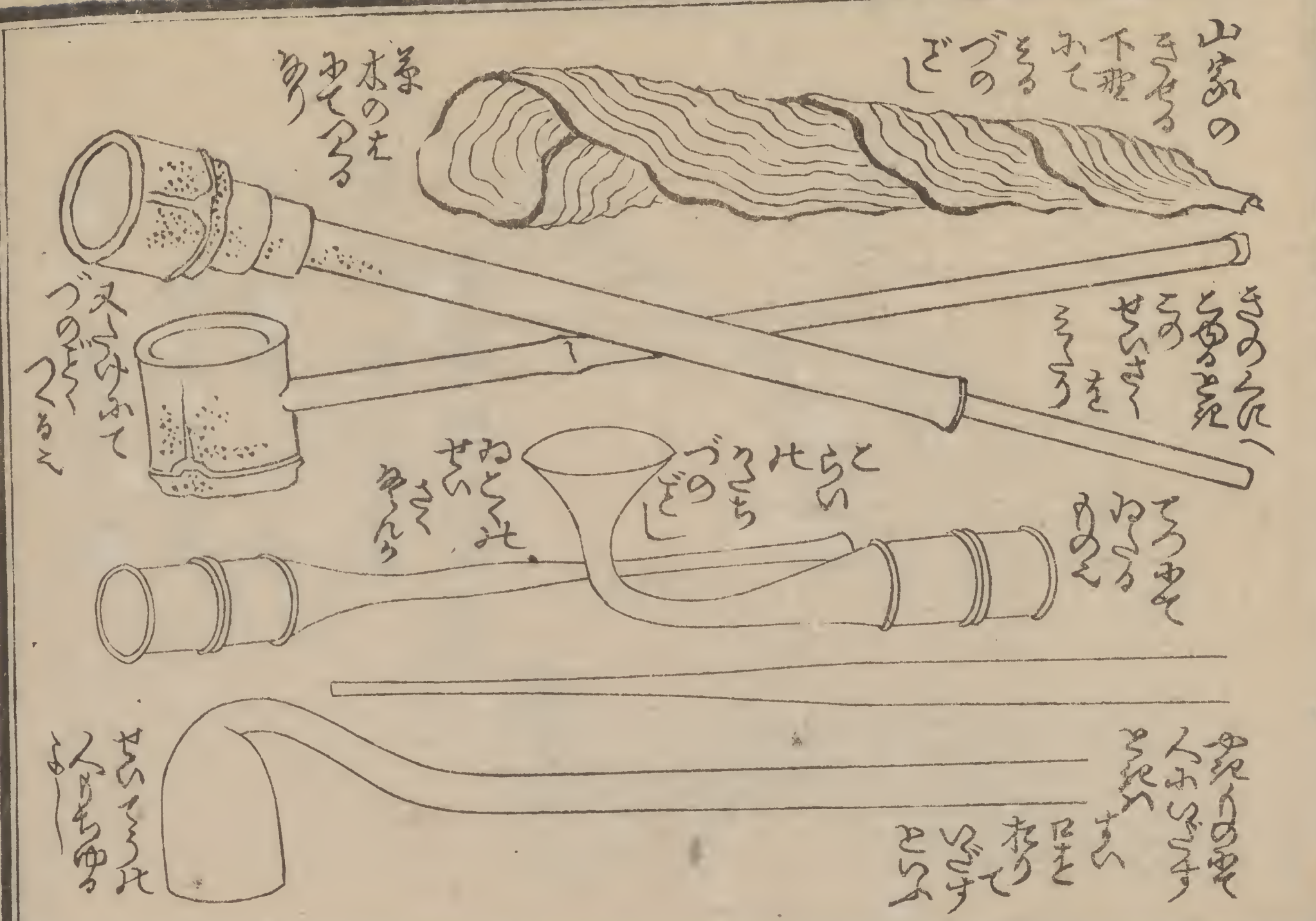
水あぶく



おろくなをこれ
あかづのどろ
するも
おのろを
さりて
さみふせ
丁子を
くまて
そのか
かんき
久
は中
さうら
き

牀上肴雲鶴
林間僻蟻蝨
清閑談玄夜
愛此樂無窮
烟草詩屎齋





書ハ聲色派関ガ如ク。画ハ身振を
 入ルガ如ク。百才一見ノ志ノ被也
 巾や、墨徑を作り、画軸を遺る。
 子ハ作者等形トシ、今也
 櫛ノ櫛乃時代世話、釘鏤と描
 金に、紋切形、二乃、繪を著て。
 櫛ノ櫛、雛形トシ、心を用バ。
 あり、此二役ノ、形トシ、也、す、の
 振附、自在あり。

文政六年春

与樂亭主人

前北齋為一先生画圖

雕五

江川留吉

東都書林永壽堂藏板目錄

為一先醒肉筆画帖

是ハ板に彫る物又何れ前北齋為一先生の内筆あり後遠國の人といへどもは画帖と云ふべき先生は入る

為一先醒雞肋画譜

此書ハ文政二年の頃より見聞せる所多風俗禽獸草木器財及び天文地理等古来より庸画工の筆と下及と然るが故画に綴と編を述ぐ也

富嶽八體

四季晴雨風雪霧天七造化に隨ハ景色の異と筆端に著

百橋一覽

一枚摺

都下村里の橋地理の宜に隨ハ製作乃各異多画き又山水と画く助けとる

画圖風雨霜雪編

山水草木人物禽獸風雨霜雪の趣まこと強弱輕重乃意味と具ふ

一覽百宮室 一枚摺

文政六年癸未夏五月

麴町平河町二丁目

衆星閣 角丸屋甚助

東都書林

馬喰町二丁目角

永壽堂 西村屋與八

Shykanai Smayo Sekki Hiragata

